

想像の翼にのって— vol.10 国境を超えてつながる人々

大中華圏において社会現象となっているライブ動画配信サービス。将来の推定市場規模は「ゲーム市場と同等になると予測される、この業界を牽引するプラットフォーム「17 Media」」。Facebook、Instagramよりも早く1000万DLを達成、8カ国のアプリランキングで1位、現在までに全世界で3000万DLを達成。日本上陸を果たしたばかりのアジアNo.1ライブメディア「17 Media」日本本社にて、最近ではエンテュランス馬術競技に夢中だという小野裕史社長と対談を行った。

赤峰：世界的にライブ動画配信市場は急成長していますが、日本での認知度はまだ低く、今は啓蒙していく段階にあると思います。今後の日本市場の推移について予測を聞かせてください。

小野：テキストから画像、画像から動画になるのは、弊社サービスの話だけではなく、時代の流れとして必然的なものだと思います。「17 Media」に関しては、日本と文化的に似ている台湾で成功しています。日本の市場規模は更に大きく、日本はカルチャーの発信基地であり、今後、ライブメディアが盛り上がりつついくことを確信しています。

赤峰：これまで、グルーポン・ジャパンをはじめ、様々なITベンチャーのスタートアップに関わり、成功に導いてこられました。それらと比較して「17 Media」の感触は如何ですか。

小野：これほど成長スピードが速く、社会に与えるインパクトが強く、パラダイムシフト

『アジアNo.1ライブメディアの日本上陸』

文 赤峰俊治 text by Shunji Akamine

が起りうる可能性を感じたことは初めてです。

赤峰：USTREAM初期よりライブ動画配信サービスに関わってきましたが、誰でも手軽にスマホで配信できるようになったこと、若い子たちが楽しんで

「17 Media」に参加している様子を見て、ライブメディアの時代が到来したことを感じています。

小野：ライブ動画配信の市場は黎明期であり、配信者のセルフプロデュース力がとても重要です。アジアで活躍するインフルエンサーを数多く輩出してきた御社に、日本からアジアで活躍できるライバーを育成してほしいと思っています。

赤峰：アジアではマスメディアが成熟する前に、インターネットの時代が来たこともあり、インフルエンサーの影響力は絶大です。2020年に5G回線となれば、ライブ動画配信サービスには更に追い風となるでしょう。

小野：日本の総広告費は、インターネットよりテレビの方がまだ多いですが、台湾では、既に逆転しました。テレビの視聴者数が減り、SNSにユーザーが移っていく中で、エンターテインメント業界のあり方も変わろうとしています。

(次号に続く)



左：小野氏、右：赤峰氏

Profile

Arigato Japan Inc. CEO & Founder / Cool Japan TV Inc. CEO & Founder

1971年、大分県出身。

國學院大学卒業後、政府系金融機関の信用保証協会に入社。融資審査業務に携わる中で、企業にとって既存の商圏を越えることのできるインターネットメディアに可能性を感じて起業。オンライン動画を活用した行政や企業の情報発信プロデュースにおいて数々の実績を残す。もっとも面白いチャンネルを投票で決める「USTREAM大賞」を2年連続受賞。現在、52カ国に約7,000人の会員を持つ、オンライン動画スクールを運営。アジア最大のYouTuberネットワークを活用した、インバウンドプロモーション及びマーケティングを手掛ける。

<http://arigato-jp.com>

